福島を届ける、農家と消費者の繋ぎ役

新ふくしま農業協同組合 営農部 農業振興対策室
農業支援センター AST　渡辺智由里

私たちのJAは福島県北部にある福島市と川俣町の１市１町からなっており、桃を主農産物とし、りんごやなしなどの果物が盛んな産地の中にあります。

私はそこでAST（agriculture support total team）という愛称で管内の先進的経営農家を対象にJAと新たなリレーションシップを再構築する農家支援のチームで活動しています。全国のJAの業務でいうTAC（とことん　会ってコミュニケーション）という業務です。農家への訪問活動を通して農家の悩み・要望・苦情などを聞き取りその解決策を立案・実施するのが私たちの役目です。

私はASTに所属し４年目を迎えました。初めはただただ訪問し農家さんと他愛もない話をし、その中で要望等があればそれに対応するだけのことをしていました。しかし、2011年の３月11日の東日本大震災で、建物や倉庫などが崩れ、原発の影響で果実や野菜、生乳などが次々に出荷停止。主農産物の桃に関してはこの年も甘くて最高においしい桃ができ上がりましたが、出荷するも価格が大暴落し、毎年１箱2,000円～3,000円以上したものが500円にまで下落した日もあり、農家の悩みや要望、不安は福島全体の声となり、農家からただ話を聴くだけでなく、農家のために何かアクションをおこさなければ、ASTとして何かできることはないかと考えました。

そんな中、当JAでも主農産物である桃の販売を何としてでも全国に売ろう広めようと立ち上げたのがSPL（新ふくしま　プレゼン　レディ）農産物販売促進協力員でした。私も農家さんの作った桃が少しでも全国に届けられればいいなと思い、率先して参加することを決めました。活動内容としては、各地方の市場や仲卸業者や小売業者に向け農産物のPRをしたり、量販店で試食販売を行ったりします。私も実際に東京や関西地方で活動を行いましたが、正直、はたして福島の桃を買ってくれるだろうか、食べてくれるかどうかと風評被害の心配がありました。しかし、それを感じることなく甘くておいしいと多くのお客さんに試食していただいたり、頑張ってねと励みの言葉もいただいたり、良いPRをすることができました。

そして、このPRの出来事、多くのお客さんに試食してもらったこと、大評判で多くの方に購入してもらったこと、また、量販店ではポスターなどを作成し売り場を華やかにし福島の桃をPRしてくれたことをASTの訪問の際に農家に伝えると、「それは良かった。」と少しの安心と「福島の桃の味を全国に伝えていくにはどうしたら良いかな？」と生産意欲、販売意欲も向上し、何より農家に笑顔が見られました。

そんな経験を得て私は、生産者の声を直接聴くことができ、消費者の声を直接聴くことができたことから、多くの人と関わりそれぞれの気持ちを聴いたり伝えたりすることで、その繋ぎ役となりそこに信頼関係を築き広範囲への繋がりを作ることができると思いました。これはASTとSPLである私にしかできない仕事だなと思いました。

栽培技術の情報を発信し生産技術などの向上を図ることはJAの本来の仕事ではありますが、こういった消費者の声や他県での福島の桃の販売状況などを伝えることで、農家の生産意欲の向上や気持ちのゆとりと笑顔を作るのも私たちの役目だと考えています。今後も生産者により良い情報を届け、消費者にも福島の情報をどんどん発信し、福島の農産物を通していろいろな場面で和が広がるよう取り組んでいきたいと思います。

（わたなべ　ちゆり）

農林中金総合研究所
http://www.nochuri.co.jp/